



INTERNATIONAL CHRONOSTRATIGRAPHIC CHART (国際年代層序表)

www.stratigraphy.org

International Commission on Stratigraphy (国際層序委員会)

2016年12月



(累)界/代	統/世	階/期	GSSP	年代/百万年前	
新第三系/代	第四系/紀	完新統/世	▲	present	
		更新統/世	上部/後期	▲	0.0117
			中部/中期	▲	0.126
			カラブリアン	▲	0.781
	新第三系/紀	鮮新統/世	ジェラシアン	▲	1.80
			ピアセンジアン	▲	2.58
		中新統/世	ザンクリアン	▲	3.600
			メッシニアン	▲	5.333
			トートニアン	▲	7.246
			サーラバリアン	▲	11.63
			ランギアン	▲	13.82
			バーディガリアン	▲	15.97
古第三系/紀	漸新統/世	アキタニアン	▲	20.44	
		チャットニアン	▲	23.03	
		ルベリアン	▲	28.1	
		プリアボニアン	▲	33.9	
	始新統/世	パートニアン	▲	37.8	
		ルテシアン	▲	41.2	
		ヤプレシアン	▲	47.8	
		サネティアン	▲	56.0	
	暁新統/世	セランダニアン	▲	59.2	
		ダニアン	▲	61.6	
		マーストリヒチアン	▲	66.0	
		ダニアン	▲	66.0	
中生界/代	上部/後期	カンパニアン	▲	72.1 ±0.2	
		サントニアン	▲	83.6 ±0.2	
		コニアシアン	▲	86.3 ±0.5	
		チューロニアン	▲	89.8 ±0.3	
		セノマニアン	▲	93.9	
		アルビアン	▲	100.5	
	下部/前期	アプチアン	▲	~113.0	
		パレミアン	▲	~125.0	
		オーテリビアン	▲	~129.4	
		バラングニアン	▲	~132.9	
		ベリアシアン	▲	~139.8	
		ベリアシアン	▲	~145.0	

(累)界/代	統/世	階/期	GSSP	年代/百万年前
中生界/代	ジュラ系/紀	チトニアン	▲	~145.0
		上部/後期	▲	152.1 ±0.9
		キンメリジアン	▲	157.3 ±1.0
		オックスフォードニアン	▲	163.5 ±1.0
		中部/中期	▲	166.1 ±1.2
		バトニアン	▲	168.3 ±1.3
	三畳系/紀	下部/前期	▲	170.3 ±1.4
		アーレニアン	▲	174.1 ±1.0
		トアルシアン	▲	182.7 ±0.7
		プリンスバッキアン	▲	190.8 ±1.0
		シネムーリアン	▲	199.3 ±0.3
		ヘッタンギアン	▲	201.3 ±0.2
古生界/代	ペルム系/紀	レーティアン	▲	~208.5
		上部/後期	▲	~227
		ノーリアン	▲	~237
		カーニアン	▲	~242
	石炭系/紀	中部/中期	▲	247.2
		ラディニアン	▲	251.2
		下部/前期	▲	251.902 ±0.024
		アニシアン	▲	254.14 ±0.07
	ペルム系/紀	オレネキアン	▲	259.1 ±0.5
		インデュアン	▲	265.1 ±0.4
		チャンシンジアン	▲	268.8 ±0.5
		ウーチャーピンジアン	▲	272.95 ±0.11
古生界/代	ローピンジアン	キャピタニアン	▲	272.95 ±0.11
		ウォーディアン	▲	283.5 ±0.6
		ローディアン	▲	283.5 ±0.6
		クンゲーリアン	▲	290.1 ±0.26
	シスウラリアン	アーティンスキアン	▲	295.0 ±0.18
		サクマーリアン	▲	298.9 ±0.15
		アッセリアン	▲	299.9 ±0.15
		グアダルピアン	▲	303.7 ±0.1
	ベンジルバニアン	上部/後期	▲	307.0 ±0.1
		グゼリアン	▲	315.2 ±0.2
		中部/中期	▲	323.2 ±0.4
		カシモビアン	▲	323.2 ±0.4
モスコビアン	下部/前期	▲	330.9 ±0.2	
	バシキーリアン	▲	330.9 ±0.2	
	サープコピアン	▲	346.7 ±0.4	
	ミシシッピアン	▲	346.7 ±0.4	
石炭系/紀	上部/後期	▲	358.9 ±0.4	
	ビゼーアン	▲	358.9 ±0.4	
	中部/中期	▲	358.9 ±0.4	
	トルネーシアン	▲	358.9 ±0.4	
石炭系/紀	下部/前期	▲	358.9 ±0.4	
	トルネーシアン	▲	358.9 ±0.4	
	トルネーシアン	▲	358.9 ±0.4	
	トルネーシアン	▲	358.9 ±0.4	

(累)界/代	統/世	階/期	GSSP	年代/百万年前
中生界/代	テボン系/紀	上部/後期	▲	358.9 ±0.4
		ファメニアン	▲	372.2 ±1.6
		中部/中期	▲	382.7 ±1.6
		フラニアン	▲	387.7 ±0.8
		ジベティアン	▲	393.3 ±1.2
		アイフェリアン	▲	407.6 ±2.6
	シルル系/紀	下部/前期	▲	410.8 ±2.8
		エムシアン	▲	419.2 ±3.2
		ブラギアン	▲	423.0 ±2.3
		ロッコヴィアン	▲	425.6 ±0.9
		ブリドリ	▲	427.4 ±0.5
		ラドロー	▲	430.5 ±0.7
古生界/代	シルル系/紀	ウェンロック	▲	433.4 ±0.8
		テリチアン	▲	438.5 ±1.1
		ランドベリ	▲	440.8 ±1.2
		アエロニアン	▲	443.4 ±1.5
	オルドビス系/紀	ラダニアン	▲	445.2 ±1.4
		ヒルナンシアン	▲	445.2 ±1.4
		カティアン	▲	453.0 ±0.7
		サンドビアン	▲	458.4 ±0.9
	カンブリア系/紀	上部/後期	▲	458.4 ±0.9
		ダーリウィリアン	▲	467.3 ±1.1
		ダーピンジアン	▲	470.0 ±1.4
		フロイアン	▲	477.7 ±1.4
中生界/代	オルドビス系/紀	トレマドキアン	▲	477.7 ±1.4
		フロンギアン	▲	485.4 ±1.9
		Stage 10	▲	~489.5
		Jiangshanian	▲	~494
	カンブリア系/紀	Paibian	▲	~497
		Guzhangian	▲	~500.5
		Series 3	▲	~504.5
		Drumian	▲	~504.5
	カンブリア系/紀	Stage 5	▲	~509
		Stage 4	▲	~514
		Stage 3	▲	~521
		Stage 2	▲	~529
カンブリア系/紀	Terreneuvian	▲	~529	
	Fortunian	▲	541.0 ±1.0	
	Fortunian	▲	541.0 ±1.0	
	Fortunian	▲	541.0 ±1.0	

(累)界/代	統/世	階/期	GSSP	年代/百万年前
中生界/代	新原生界/代	エディアカラン	▲	~541.0 ±1.0
		クライオジェニアン	▲	~635
		トニアン	▲	~720
		中部/中期	▲	1000
		ステニアン	▲	1200
		エクタシアン	▲	1400
	古原生界/代	カリミアン	▲	1600
		スタテリアン	▲	1800
		オロシリアン	▲	2050
		リアキアン	▲	2300
		シテリアン	▲	2500
		シテリアン	▲	2500
中生界/代	新始生界/代 (新太古界/代)	▲	2800	
	中始生界/代 (中太古界/代)	▲	3200	
	古始生界/代 (古太古界/代)	▲	3600	
	原始生界/代 (原太古界/代)	▲	4000	
	原始生界/代 (原太古界/代)	▲	4000	
	原始生界/代 (原太古界/代)	▲	4000	
中生界/代	冥王界/代 (非公式)	▲	~4600	
	冥王界/代 (非公式)	▲	~4600	

すべての階層の層序区分単位に対して、その下限をGSSPs(国際境界模式層断面とポイント)によって定義する作業が進行中である。これは、長らくGSSA(国際標準層序年代)によって定義されてきた始生(累)界(太古(累)界)および原生(累)界の下限に対しても同様である。GSSPsに関する図および詳細な情報は、ウェブサイト「<http://www.stratigraphy.org>」に掲載されている。

本表に掲載されている年代値は見直されることがあるが、それは顕生(累)界およびエディアカラン系の層序区分単位の定義の変更を伴うものではない。そのような定義の変更は、GSSPsによってのみ可能である。GSSPsにより定義されていない境界や確定した年代値がない顕生(累)界の層序区分単位境界に対しては、おおよその年代値を「~」を付して示した。

下部更新統、ペルム系、三畳系、白亜系、先カンブリア(累)界を除く全ての界の年代値は、Gradstein et al. (2012) の「The Geologic Time Scale 2012」による。下部更新統、ペルム系、三畳系、白亜系の年代値に関しては、当該問題を扱う国際層序委員会の小委員会による。

表の色は、国際地質図委員会 (Commission for the Geological Map of the World; www.cgmw.org) の推奨に従う。

この日本語版ISC Chart (2015年版) は、IUGS(国際地質科学連合)の許諾を得て、日本地質学会が作成した。

